1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月1・2・3・5・6・7の日発行）2019年11月13日発行SSKP通巻7294号

SSKP はれのちくもり

第121号
ピアス通信別冊第42号

この通信では、就労移行事業所・自立訓練事業所ピアスのトレーニングやイベントを中心に「働く」ことに関する情報を発信していきます。

くにたち苑実習について

実習前のメンバーの多くが通る「くにたち苑」ですが、「いつからくにたち苑とおつきあいがあるのか？」「くにたち苑で何を得られるのか」という疑問がメンバーから出ました。そこで、知っているようで実は知らない「くにたち苑実習」について特集することにしました！まず、1面ではくにたち苑とピアスの歴史を施設長である高橋しのぶさんから、くにたち苑担当の役割を現・くにたち苑担当の吉岡さんにお聞きしました。

くにたち苑とピアスの歴史

1997年に開所して以来、ピアスは時代に合わせて様々なトレーニング種目を取り入れてきました。くにたち苑のリネントレーニングもそのひとつですが、その位置づけもいくつかの節目で変わり、現在に至っています。そもそも、くにたち苑とのおつきあいはピアスが開所してまもない頃、「社会適応訓練」という東京都の事業の訓練先として出会ったのが始まりです。その当時のメンバーの真面目な働きぶりが認められ、その後直接雇用（アルバイト）になった時期もありました。その後少し間があきましたが、数年前にまた林苑長（多摩棕櫚亭協会　理事）からお声をかけていただき、現在の形になっています。

職場に直接出勤し、職員の方と同じユニフォームを着て作業を行う環境は、ピアス内トレーニングとは違ったリアルな職場の雰囲気を感じることができます。そのような場をピアスでは**施設外トレーニング兼、プレ職場実習**として位置づけ、多くのメンバーが約6週間参加しています。外に出るということ以外に1日５時間の体力や、ペア作業の中でのコミュニケーション、ピアス内トレーニングでわかった強みや弱みの再確認などの目標で取り組むとよいと感じています。

くにたち苑スタッフの役割

くにたち苑担当の吉岡です。くにたち苑のスタッフの業務について紹介します。

まずは実習前に事前面談を行い、その人の目的や目的を伺います。実習が始まったら、くにたち苑の説明と作業指導を行います。作業中はみなさんの作業が滞らないよう、声掛けや作業のフォローを行ったり、困ったときや悩んだときに相談に乗ったりしています。また、掲げた目的を重視しつつも、新たな課題が出たときは本人と確認しながら実習を進めていきます。外部実習と違うところがあるとすれば、そのつど職員が声掛けや振り返りを行い、リアルタイムで自分の状況を知れることでしょうか。

実習後はそれぞれの課題や目的に沿って作業の振り返りを行い、実習評価を出しています。実習を終えたみなさんからは「6週間の実習をやりきった達成感」や、「作業を通して自分の力を知り、得意・不得意の確認ができた」そして「自分の気付かなかったことを知り、くにたち苑での実習がターニングポイントになった」という声を聞きます。くにたち苑での実習を糧に今後のトレーニングや就職に活かしていただけたら、担当としてはうれしいですね。

1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月1・2・3・5・6・7の日発行）2019年11月13日発行SSKP通巻7294号

くにたち苑　メンバー座談会

ここから今回のメイン企画！くにたち苑を経験したメンバーAさん・Bさんを交え、座談会を開きました。お二人はほぼ同時期にピアスに入所し、今は就職活動の真っ只中です。初の実習であるくにたち苑で何を手に入れたのか、普段は聞けない深いところまで尋ねてみました。

Aさん　男性　ピアスにきて1年5ヶ月	Bさん　女性　ピアスに来て1年半
ピアスを通して様々な経験をさせていただいています。休日はロードバイクで走ってます！	本と映画と甘いものを楽しみに、目標に向かってがんばっています。

それではAさん、Bさん、よろしくおねがいします。

Q.1 初めてくにたち苑に行く日、どのような心境でしたか？

A：ピアスと違うところに行く緊張感と「これからがんばるぞ」という期待感の両方ありました。

B：私は環境の変化に弱いので、緊張感が結構強かったです。新しい場所ですし、くにたち苑担当の吉岡さんとも面談で初めてきちんとお話をしたので、初日はとても緊張していました。

Q.2 くにたち苑の実習とピアスのトレーニングとの違いはどこで感じましたか？

A:**くにたち苑は「仕事」、ピアスは「トレーニング」**という感覚で捉えていました。ひとつな大きなところは環境の違いですね。雰囲気が全然違って。ピアスはいろんな人がいてくれて、面倒見てくれて手厚いし、何かあったらすぐに対応してくれるけれど、くにたち苑は**任される感じ**がしました。「これは仕事として捉えなきゃ。」と初日に思いました。そんな中でも、やっぱり心強かったのは先輩がいたこと。**先輩の仕事を見ながら教えてもらえたのは心強かった**です。また、くにたち苑は定型業務が多かったので、精神的に安心してできました。気持ち的に余裕をもって取り組めましたね。

B:まずは少人数であること、もうひとつは外部のくにたち苑のスタッフの方であったり、入居している方とのやりとりがあることかなと思います。ピアスでもお弁当を届けるお客様がいらっしゃいますが、**くにたち苑は実際の職場**なのでやっぱりなんだか違う感じがします。メンバーさん2人で機械とたたみにわかれるので、分担が明確に決まっていて、一日にすることをこなしていくというところがピアスと違ったかなあと思います。

A:一番印象的だったのは、くにたち苑にはタイムテーブルがあって、何時にはこの仕事をするという表が貼ってあったんですね。ピアスは人との対応で仕事が変化していくのでイレギュラーですけれど、くにたち苑は事前にやる仕事や量が明確だったので、やりやすかったです。ピアスのトレーニングは慣れるのに時間がかかりましたが、くにたち苑は1週間くらい慣れました。環境に慣れよう・対応できるようになろうとがんばっていました。僕は家に帰ると1日にあったことを復習するんですけど、そこで翌日のくにたち苑でやることも組み立てていました。

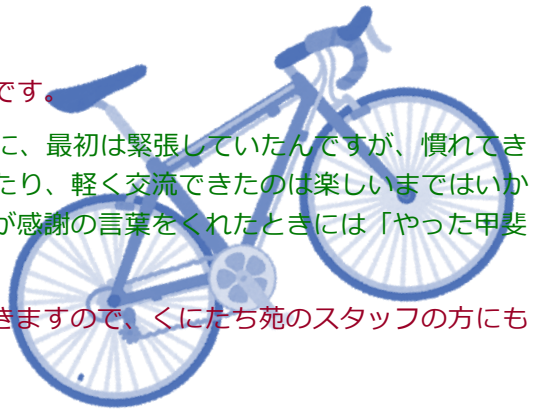
Q.3 くにたち苑での楽しかったエピソードを教えて下さい。

A：お昼ご飯が楽しみでした。

B:お弁当の配達でメンバーさんと会えるのがうれしかったです。

A:あとは、くにたち苑の利用者さんに声をかけられたときに、最初は緊張していたんですが、慣れてきてからあいさつしたり、逆に入居者さんの方から会釈してくれたり、軽く交流できたのは楽しいまではいかないけど、ちょっとほんわかする時間でしたね。お年寄りの方が感謝の言葉をくれたときには「やった甲斐があったな」と思います。

B:入居者さんともそうなんですけど、やっぱり2ヶ月弱行きますので、くにたち苑のスタッフの方にも声をかけてもらえたりすると、嬉しかったですね。



Q.4 6週間の実習を終えて……ピアスに戻ってから新たに気付いたことはありますか？

A：くにたち苑は一日定型でやることが決まっているけれど、ピアスは午前と午後で入る部門が違うから、休憩がすごく大事だと気づきました。しっかり**リセットして次のスイッチに切り替える**というか。

B：逆に私は、後半の機械作業で苦労したところがピアスで活きたかなと感じています。たとえば、厨房の役割に入るときの緊張度が低くなっていたり、環境の仕事の組立やスピードがスムーズになっていたりしたような気がします。機械作業に自信がつくところまではいかなかったのですが、それと比較すると**相対的に、ピアスのトレーニングには自信をもてるようになった**のかなと思います。

――スタッフがいない環境だと、自分で考えないといけない場面が多くなりますよね。結果、自分で考えるようになったというのはあるんでしょうか？

A：作業の組み立てでいえば**自立度**というか、そういうのに役立ったのかなぁ。**スタッフに頼らない**というか。

B：自分が**スタッフに頼っていたことに気づきます**ね。後半でスタッフがいない日があり、症状が出てしまったときに、スタッフの存在に頼っているんだという気付きがあったのは吉岡さんや担当に後でお話しました。

A：**ピアスにいると甘えちゃうんですよね（笑）**。くにたち苑があったから次の企業実習がうまくいったと、今なら思えます。僕にとってくにたち苑は、**ステップアップするのにすごく重要でした。**

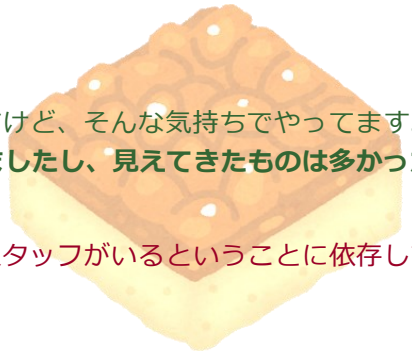
Q.5 くにたち苑での実習を円滑に進めていくコツなどがあれば教えて下さい。

A：なんでもそうだと思うんですけど「慣れる」こと。あと、**先輩の話を聞くとか事前に情報を集めておく**というのは大事かもしれないです。

B：時間や日数が増えると思うので、なるべくきちんと**生活を整えておく**といいと思います。

A：あとはさっきも話しましたが、**スイッチを切り替える**のが大事ですね。「ここはピアスと違うんだ、くにたち苑は仕事をする場所だ」みたいな。さっきの自立の話ともつながると思います。

Q.6 あなたにとってくにたち苑とはどんなところですか？



A：**仕事場**ですね。このあと（座談会が終わったら）行くんですけど、そんな気持ちでやってます。何より、**転機**にもなりましたね。**自分の得意・不得意がよくわかりましたし、見えてきたものは多かった**ように思います。

B：**スイッチが切り替わる場所**かなと思います。ピアスでは、スタッフがいるということに依存していると気付けたのが一番大きかったですね。

座談会を終えて……

おふたりから出てきた**「自立」「スタッフに頼らない」「ピアスにいると甘えてしまう」**というのは重要なキーワードかもしれないですね。それに気づくことで**相手に頼らなければいけないところや、逆にどこまで自分でやるべきかという線引きができるようになる**のかもしれません。（スタッフ）

就活に入った方々だからなのかわかりませんが、とても落ち着いていて説得力のある座談会でした。僕が予想していたくにたち苑の印象は「孤立」なのに対し、「職場」と返してきたのが、いかにも就職を意識して取り組んでいるんだなあと思いました。（M.N）

1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月1・2・3・5・6・7の日発行）2019年11月13日発行SSKP通巻7294号

-COLUMN- カラオケについて（ピアス　カラオケ部紹介）

現在ピアスでは、メンバーの自主活動として工賃・交通費支給日にカラオケ部を開催しています。日頃のトレーニングの疲れやストレスを発散できる有意義な時間になっているようで、かれこれ半年以上続いています。

今回は参加者の「とっつぁんぼーい」さんがカラオケにちなんだエッセイを寄稿してくださりました。鋭い視点から書かれた独特の世界をお楽しみください♪

◆　◆

カラオケは人数によって楽しみ方が違う特殊な娯楽だ。その中でも一人と二人の境界線は一線を画する。

一人通称ヒトカラは誰に気を遣うこと無く、好きなように歌える。ただ生身の人に評価してもらえないので臨場感が出ない。

二人以上のカラオケの場合は「歌う」と「聞く」がある。たいてい「歌う」はその場に合った歌を選曲し相手に何かを伝えるために歌う。ヒトカラでストレス発散はともかく二人以上のカラオケは多少なりともストレスは発生する。その中で自分はこれを歌ったんだぞと自分を表現する、これに尽きる。

「聞く」は他の人に対して何かしらのリアクションをするのが礼儀というものだ。また、大人数の場合、待ち時間が発生する。ここでの時間使い方によってその人の人となりがわかる。歌を聞き入る人、掛け声をかける人、スマホをいじくる人。できれば後者は避けたい。他者を受容することでより良いカラオケにできることだろう。

僕が思うにこの「歌う」と「聞く」にカラオケの真髄があるのではないかと思う。たまに、社交的に誘われて泣く泣く行くケースもあるが、ぜひ自分を表現する、他者を受容する場として臨んでほしい。

（とっつぁんぼーい）

ピアスからのお知らせ

◆12/14午前中に、OB会でクリスマスパーティーを予定しています。

今回は現役メンバーも交えての開催を予定しております！OBの方はもちろん、**現ピアスメンバーのみなさんも、ぜひぜひ奮ってご参加ください♫**

ホームページで最新情報をお届けしています。

➔www.shuro.jp

または『棕櫚亭』で検索！

★QRコードできました★

【編集】国立市富士見台1-17-4
社会福祉法人　多摩棕櫚亭協会
就労移行支援事業所ピアス内
はれのちくもり編集委員会
Tel 042-575-5911
【発行】特定非営利活動法人
障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 世田谷区祖師谷3-1-17-102
Tel 03-6277-9611
【定価】100円